

国土交通分野イノベーション推進大綱の概要

総合政策局 政策課

イノベーションとは

「イノベーション」とは元来1912年にオーストリアの経済学者であるシュンペーターが提言した概念であり、日本語ではよく、技術革新や経営革新、あるいは単に革新、刷新を指すと誤解されていますが、実際はこれまでのモノ、仕組みなどに対して、全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすことを意味しています。

なぜイノベーション戦略がさまざまな国で打ち出されているのか、それはグローバル化の進展や少子高齢化といった諸課題を解決していくためです。

情報通信技術の発達によりグローバル化は現実的なものとなり、インドや中国の人々とマウスのクリック一つで仕事ができるようになりました。こういった流動的で変化のスピードの速い社会では、今まで政府が行ってきた産業政策ではなく、総合的に変化に対応できるルール作り、仕組み作

りが重要となってきます。

また、日本の総人口が2006年をピークに減少し、2015年には4人に1人が高齢者になるという予測がなされていますが、労働力が減少する中で経済成長を持続するためには、これまでになく高い生産性を維持することが必要です。

安倍内閣においても、成長戦略としてのイノベーションが重要政策として位置づけられています。国土交通省においても、こうした動きと連携しつつ、昨年10月以来国土交通分野イノベーション推進本部を設置し、5月25日に「ICTが変える、私たちの暮らし」国土交通分野イノベーション推進大綱」を取りまとめましたので、その内容を紹介します。

なぜ今ICTなのか

イノベーション推進の重要なツールとして、大きな役割が期待されているのが、情報通信技術（ICT）です。ICTは、時間と距離を超越することにより地理的・空間的制約を克服し得る非常に大きなポテンシャルを有するとともに、技術革新のテンポが非常に速く、短期間に既存の社会構造や国民生活を大きく変貌させる可能性を秘めているものです。こうしたICTのポテンシャルを活用し、人口減少の局面においても高い生産性を確保し、かつ新しい価値を次々と生み出していくことが求められています。

国土交通省は、国土形成や社会資本整備、国際輸送から地域交通に至る交通行政を幅広く所管しています。国土交通省としては、これら国民の日常生活や企業の産業活動の基盤となる分野にICTを最大限活用し、そこから幅広い分野でのイノベーションを次々と生み出していくための環境整備を行うとともに、社会経済におけるさまざまな課題を解決するべく、大綱を取りまとめたものです。

イノベーション推進のための社会インフラとなる共通基盤の構築について

大綱においては、まず第一に、国土交通省が担う社会経済の基盤づくりの分野で、さまざまな主体が多様な応用に見える汎用性の高い共通基盤を構築することにより、社会経済の幅広い分野においてイノベーションが次々に生まれてくる環境を整備することに重点を置きました。こうした環境整備は、社会資本整備やその他の制度づくりを含めた、ソフト、ハードの施策を組み合わせた社会インフラの構築と言つべきものであり、以下の3つの項目をその中核と位置づけることを考えています。

あらゆる場所 ヒト、クルマ、モノと情報を結びつけ、現在の位置や状況を自動的に把握することを可能とする基盤の整備
大容量データの安定かつ迅速な伝達を可能とする光ファイバ網や無線網など、国土交通省が保有している全国を網羅するネットワーク基盤の利活用の促進

ハード、ソフトを含めた社会インフラとしての基盤の整備 制度設計を行う際には、これらの基盤をオープンかつユニバーサルな基盤として構築することが必要です。汎用性のある共通基盤を、官民を問わず多様な主体が多様な目的に活用することを通じて、幅広い国土交通分野はもとより、それ以外の新サービスも次々と生まれてくるようなものとするを旨とすべきであり、それこそがイノベーションのブレイクスルーとなるものとして、国、地方自治体、民間企業の円滑な役割分担を通じて整備してまいります。

ITS：最先端の情報通信技術を用いて人と道路と車両とを情報でネットワークすることにより、交通事故、渋滞などといった道路交通問題の解決を目的に構築する新しい交通システム

共通基盤の構築とともに進める重点プロジェクト

位置に関する情報を含んだ情報の幅広い共有化や高度な活用を可能とする、地理空間情報基盤の整備
ICTタグやセンサーの設置、ICカードの高度化やITSの推進等を通じ、あ

大綱においては、共通基盤の構築とともに、国土交通省として今後進めていく具体

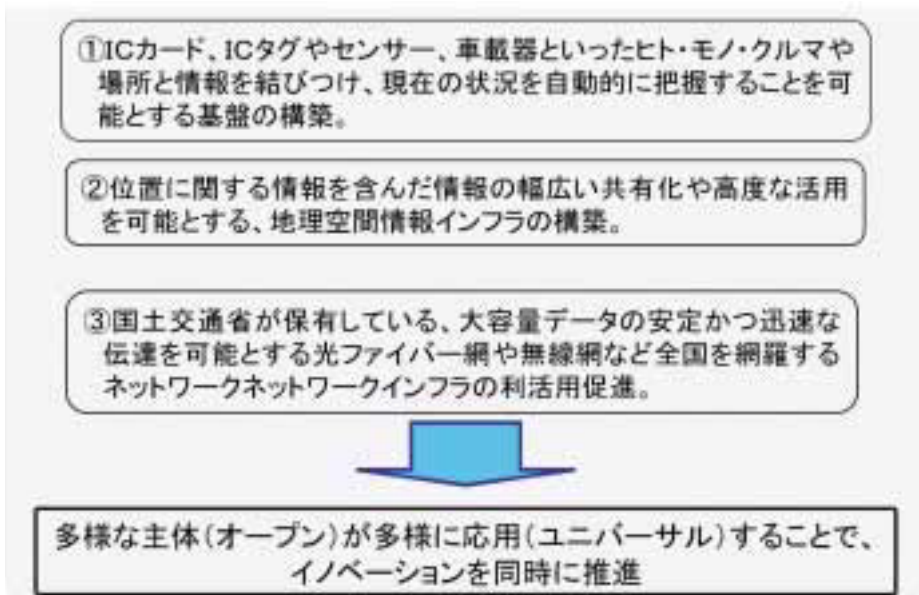


図 イノベーションのプレイクスルーとなるオープンでユニバーサルな共通基盤



図 イノベーションのプレイクスルーとなる共通基盤のイメージ

的なICT化プロジェクトを、国土交通分野の将来像と今後の戦略としてまとめます。これらの具体的なICT化プロジェクトについては、省内はもとより民間からも幅広く施策やアイデアを募集し、これらの提案を可能な限り反映するべく各部署で検討をしたものです。

個別のプロジェクトにつきましては20ページ以下『報告』で詳細を記述しますが、ここでは「国土交通分野における将来像と今後の戦略」で取り上げた9つのテーマを

紹介します。大綱においては、これら9つのテーマにそれぞれ行つべき施策を記載するとともに、別添資料として、個別施策の今後のスケジュールを年次を明記して記載

しています。誰もが円滑に快適に移動できるモビリティ社会の実現、イ社会的実現、効率的、安全で環境に優しい物流の実現

- 世界一安全でインテリジェントな道路交通社会の実現
- 災害時への備えが万全な防災先進社会の実現
- 良質で豊かな生活環境の実現
- テロ・大規模事故ゼロ社会の実現
- 知恵と工夫にあふれた活力ある地域社会の実現
- ホストリテイあふれる観光先進国の実現
- 社会資本整備・管理の効率化、生産性の向上

今後の取組み

国土交通省としては、今後この大綱を基に、関係府省、地方公共団体や企業等関係者と協力しつつ、我が国の新しい可能性を切り拓くイノベーションのプレイクスルーとなる共通基盤をスピード感をもって構築していくとともに、国土交通分野におけるICT化プロジェクトを通じて、国土交通分野における様々な課題の解決に向けて取り組んで参ります。

「ICTが変える、私たちの暮らし」国土交通分野イノベーション推進大綱」は以下のウェブサイトにて入手可能です。
http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha07/01/010525_3_.html